さいたま市全域が参加エリア！

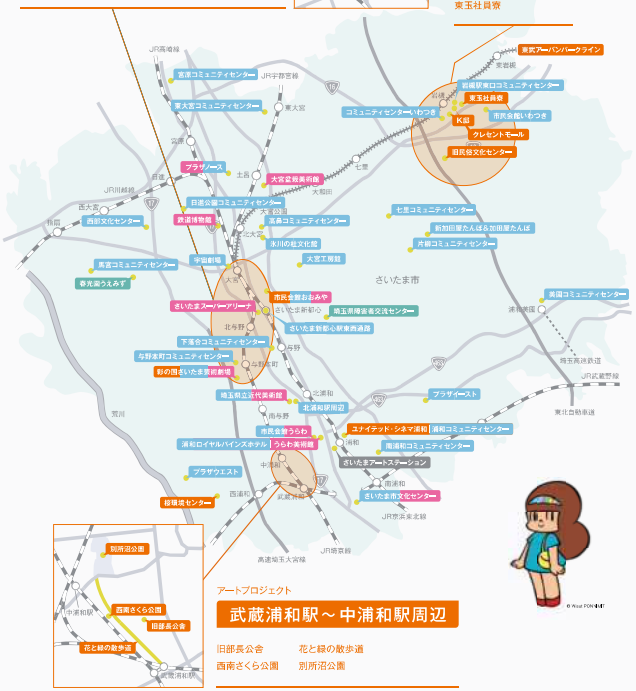
■ アートプロジェクト
■ 市民プロジェクト
■ 連携プロジェクト
■ その他のプロジェクト

アートプロジェクト
与野本町駅～大宮駅周辺

大宮区役所 旧地下食堂
大宮小学校 体育館
大宮タカシマヤ ローズギャラリー
彩の国さいたま芸術劇場
市民会館おおみや 旧地下食堂
山丸公園

アートプロジェクト
岩槻駅周辺

旧民俗文化センター
クレセントモール
K部
東玉社員寮



アートプロジェクト
武蔵浦和駅～中浦和駅周辺

旧部長公舎
西南さくら公園
花と緑の散歩道
別所沿公園

© Visual Pit

Triennale
トリエンナーレとは？

「3年に一度」を意味するイタリア語で、3年ごとに開催される芸術祭のことをいいます。
アートの力でまちや人をいきいきとさせる催しとして、世界や日本各地で開催され親しまれています。
さいたまトリエンナーレ2016では「未来の発見！」というテーマのもと、国際的に活躍するアーティストたちがさいたま市を訪れ、
日常のなかでは見えにくくなっている大切なことや、気づいていなかった可能性、隠れていたつながりなどに光を当て、
人それぞれが自分の生活の現場から未来を発見するきっかけとなるようなアートプロジェクトを、まちのあちこちで展開していきます。

Artist
さいたまトリエンナーレ2016　参加アーティスト

勝手に Follow us !! さいトリをあなたのSNSで盛りあげてください！
SNSアンバサダー募集中!!

Instagram
#さいトリ#SAITORI

Facebook
さいたまトリエンナーレ2016

Twitter
Saitama Triennal

公式ガイドブック

さいたまトリエンナーレ2016
公式ガイドブック（9月16日発売）
定価1,000円（税込）
市内書店、アート専門書店などで販売。
出品作品やアーティスト情報、詳細マップのほか、さいたまにまつわるトリビアやまち情報も収録したハンディサイズのガイドブック。市内の会場巡りがもっと便利に、楽しくなります。

パートナーシップロゴで一緒にあなたのイベントも盛り上げていきませんか？

さいたまトリエンナーレ公式ウェブサイトでは、トリエンナーレのPRをしてくださるイベントを紹介するなど、パートナーシップロゴ（トリエンナーレ応援ロゴ）を通じてPRの相互協力・連携を推進しています。詳細はお問い合わせ先、もしくは公式ウェブサイトをご覧ください。

私たちは さいたま トリエンナーレ 2016を応援しています
We support SAITAMA TRIENNALE 2016

SAITAMA TRIENNALE 2016
さいたま トリエンナーレ 2016

お問い合わせ（平日8:30-18:00）
さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局（さいたま市役所 文化振興課 トリエンナーレ係）
TEL 048-829-1225 FAX 048-829-1996　E-mail bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

このチラシは100,000部作成し、1部あたりの作成費用は15円です。（この印刷物の作成費用には、デザイン料が含まれます。）

SAITAMA TRIENNALE 2016

SAITAMA TRIENNALE 2016
さいたま トリエンナーレ 2016

さいたま トリエンナーレ 2016

この秋、さいたまでアート散歩

© Visual Pit

未来の発見！

2016年9月24日[土]ー12月11日[日] 79日間
定休日＝水曜（ただし11/23[水・祝]は開場、翌11/24[木]は閉場）　開場時間：10:00ー18:00（入場は17:30まで）
開催エリア＝与野本町駅～大宮駅周辺、武蔵浦和駅～中浦和駅周辺、岩槻駅周辺
鑑賞無料（一部の公演、上映を除く）

公式ウェブサイト
http://saitamatriennale.jp

主催＝さいたまトリエンナーレ実行委員会
アーティスティック・ディレクター＝芹沢高志（PS art and environment 研究ディレクター）

助成：令和2(2020)年度 文化芸術による地域活性化・観賞機会創出事業）、独立行政法人日本芸術文化振興会（JPNPC アート ファンド）（企画メセナ助成金 2021 Arts Fund）、
横断型教育活動、公益財団法人日産文化交流基金、公益財団法人住友財団、公益財団法人全労メセナ基金事　2021年度「文化による新しい公共」支援プログラム

画：Illustration: Wout PONNET
artworks featured in the illustration: Saitama Businessman by Arjuro BIKSE, Breathing Flower by CHOI Jeong Hwa, If Rhino's horn had been longer, the world would have been changed, by Ryuzo KAWANO